

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	尚絅大学
設置者名	学校法人尚絅学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
現代文化学部	文化コミュニケーション学科	/	1	4	8	13	13	
生活科学部	栄養科学科	/		1	11	13	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<p>本学 Web サイトにおいて公表 (URL : https://www.shokei-gakuen.ac.jp/univ/outline/disclosure/) https://gakumu.shokei-gakuen.ac.jp (シラバスについてはゲストユーザーからログインし、実務経験のある教員一覧を参照の上検索)</p>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	尚絅大学
設置者名	学校法人尚絅学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

本学 Web サイトにて公表 https://www.shokei-gakuen.ac.jp/outline/

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	株式会社役員	2022. 4. 1～ 2026. 3. 31	法人業務の総理
非常勤	株式会社役員	2019. 7. 12～ 2023. 7. 11	経営者として広く社会的知見の活かした経営計画策定への参画、組織運営体制へのチェック機能
(備考)			

様式第 2 号の 3 【(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	尚綱大学
設置者名	学校法人尚綱学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>■尚綱大学・尚綱大学短期大学部授業計画作成ガイドライン (URL: https://www.shokei-gakuen.ac.jp/univ/outline/disclosure)</p> <p>■各学部の授業科目一覧 (URL: https://www.shokei-gakuen.ac.jp/univ/outline/disclosure)</p> <p>■各学部の授業科目のシラバス一覧 尚綱大学・尚綱大学短期大学部教務システム URL:https://gakumu.shokei-gakuen.ac.jp (ゲストユーザーからログインし検索)</p> <p>■授業履修の手続き COMPASS (初年次教育テキスト) (URL: https://www.shokei-gakuen.ac.jp/univ/outline/disclosure)</p> <p>■概要 授業計画書(シラバス)は、例年 11 月頃に全学的な機関である教務連絡協議会において、次年度のシラバスの作成・点検期間を決定している。12 月に授業担当教員を対象にシラバスの作成・注意点等について説明会を実施し、翌年 1 月下旬まで授業担当教員によるシラバス初校データ作成の後、シラバス点検委員の点検を受け、4 月 1 日に公表している。</p> <p>授業概要(シラバス)は、教務システム(ユニバーサルパスポート)において、各自学生が履修登録をする上で必要な事項、成績評価方法、準備学習、実務経験のある教員などを記載している。また、学習への意欲を試験やレポート等で把握し、学修成果の厳格かつ適正な評価を行い、単位を授与することとしている。具体的には、シラバスには成績評価の割合を記載するよう行っている。(例: 定期試験 50%、レポート提出 30%、学習意欲 20%)</p> <p>なお、実務教員による授業科目については、上記の本学教務システムにおいて、実務経験のある教員一覧を参照の上検索できる。 これら授業作成ガイドラインを Web 上に公表し、教務システムを通してシラバスを公開している。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>本学 Web サイトにおいて公表 https://gakumu.shokei-gakuen.ac.jp (ゲストユーザーからログインし、シラバスを検索してください。)</p>

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

■概要

尚綱大学学則第 13 条第 1 項に定められた単位の計算方法により各授業科目の単位数を決定し、且つ尚綱大学学則第 24 条及び第 28 条に基づき、単位・卒業の認定を行う。本学では単位の認定を行うにあたり、各教員に対してその授業を学ぶ「意味・意義」を意識させたシラバスの作成を求め、またその授業科目がディプロマ・ポリシー（学位授与方針）とどのように関与しているかを明示するよう求める。

具体的には「授業概要」「キーワード」「課題と評価の方法」「事前・事後学修の内容と目安」などを記載し、入学した学部・学科の教育課程の授業を履修し、各授業科目に定めている「到達目標」を達成し、学力試験及び受講状況その他により審査の上、合格した者に単位を認定するものとする。

最終的に本学に 4 年以上在学し、所定の授業を履修した上で、124 単位以上の単位を修得した者について学年又は学期の終わりに教授会の議を経て、学長が卒業を認定する。

(根拠学則)

尚綱大学学則第 13 条第 1 項、尚綱大学学則第 24 条、尚綱大学学則第 28 条

3. 成績評価において、G P A 等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

■G P A の算定について

尚綱大学におけるグレード・ポイント・アベレージ (GPA) 制度に関する規程

(URL : <https://www.shokei-gakuen.ac.jp/univ/outline/disclosure>)

■G P A の種類及び算出方法

- ・G P A は、学期G P A、通算G P A に区分する。
- ・G P A は以下の式により計算するものとし、小数点第 3 位を四捨五入し、小数点第 2 位を表示させるものとする。
- ・総履修登録単位数は、G P A 算出対象の授業科目の合計履修登録単位数とする。

G P A =

$$\frac{(\text{秀} 4 \times \text{修得単位数}) + (\text{優} 3 \times \text{修得単位数}) + (\text{良} 2 \times \text{修得単位数}) + (\text{可} 1 \times \text{修得単位数})}{\text{総履修登録単位数}}$$

■概要

本学では学生の成績の客観的な指標として、G P A (グレード・ポイント・アベレージ) を採用している。その上で、学生の相対的な成績状況を把握している。また、学生の成績を各学科の専任教員等に情報を共有し、履修指導や各種奨学金等に関することなどを行っている。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

本学 Web サイトにおいて公表

<https://www.shokei-gakuen.ac.jp/univ/outline/disclosure>

<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>■大学のディプロマ・ポリシー 尚綱大学ディプロマ・ポリシー https://www.shokei-gakuen.ac.jp/univ/gakubu/diploma_policy?id=ad01</p> <p>■概要 各学部・学科においてディプロマ・ポリシーを明確に定めており、4年間でそれらの資質・能力を修得させるために、教育課程の中に定める授業科目を履修し、所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学位が授与される。また、具体的に卒業するための条件として、尚綱大学学則において卒業認定に関する事項を規定しているが、卒業要件に必要な最低単位数や卒業条件等は、各学部の履修規程に明確に定めている。各学部の卒業要件（卒業資格）に達した者は、学年又は学期の終わりに、教授会の議を経て、学長が卒業を認定する。その卒業認定の結果については、学内の掲示板への掲示等により学生に通知することになっている。</p> <p>参考： 尚綱大学（学則）第28条 尚綱大学生活科学部履修規程第4条 尚綱大学現代文化学部履修規程第8条</p>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>本学 Web サイトにおいて公表 https://www.shokei-gakuen.ac.jp/univ/gakubu/diploma_policy?id=ad01</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	尚綱大学
設置者名	学校法人尚綱学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	本学 Web サイトにおいて公表 https://www.shokei-gakuen.ac.jp/files/gakuen/R03.pdf
収支計算書又は損益計算書	本学 Web サイトにおいて公表 https://www.shokei-gakuen.ac.jp/files/gakuen/R03.pdf
財産目録	本学 Web サイトにおいて公表 https://www.shokei-gakuen.ac.jp/files/gakuen/R03.pdf
事業報告書	本学 Web サイトにおいて公表 https://www.shokei-gakuen.ac.jp/files/gakuen/R03.pdf
監事による監査報告(書)	本学 Web サイトにおいて公表 https://www.shokei-gakuen.ac.jp/files/gakuen/R03.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:令和4年度学校法人尚綱学園事業計画書 対象年度:令和4年度)
公表方法:本学 Web サイトにおいて公表 https://www.shokei-gakuen.ac.jp/files/gakuen/r4_jigyokeikaku.pdf
中長期計画(名称:尚綱学園の長期ビジョン(将来像)と中長期行動計画~SEI2013-2022~ 対象年度:平成25年~令和4年)
公表方法:本学 Web サイトにおいて公表 https://www.shokei-gakuen.ac.jp/files/gakuen/vision_2021.pdf

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:本学 Web サイトにて公表 https://www.shokei-gakuen.ac.jp/univ/outline/daigakuhyoka
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:本学 Web サイトにて公表 https://www.shokei-gakuen.ac.jp/univ/outline/daigakuhyoka
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 現代文化学部文化コミュニケーション学科
教育研究上の目的 (公表方法: 本学 Web サイトにおいて公表) https://www.shokei-gakuen.ac.jp/univ/outline
(概要) 現代文化学部は、高度なコミュニケーション能力を基礎に、高度情報化とグローバル化が進行する現代日本社会及び多様な表現文化について、広い視野から調査・分析する能力を修得し、ビジネスや行政の場で協働して問題を解決できる女性を育成することを目的とする。(尚綱大学学則第 4 条第 1 項)
卒業の認定に関する方針 (公表方法: 本学 Web サイトにおいて公表) https://www.shokei-gakuen.ac.jp/univ/gakubu/diploma_policy?id=ad01
(概要) 現代文化学部は、建学の精神のもと、教育研究の目的に則り、以下の能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、「学士(文学)」の学位を授与します。 (1) 日本語および外国語の運用力に基づく、高度なコミュニケーション力を修得している。 (2) 伝統的および現代的な日本文化に関する深い知識に基づき、古代から現代に至る日本文化を調査・分析する能力を修得している。 (3) 高度情報化とグローバル化が進行した日本の地域社会・地域文化、および東アジアの社会文化に関する幅広い知見に基づき、日本社会・文化に関する諸問題を調査・分析する力を修得している。 (4) 上述の能力を総合的に活用して、ビジネスや行政の場で協働して問題を解決できる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: 本学 Web サイトにおいて公表) https://www.shokei-gakuen.ac.jp/univ/gakubu/curriculum_policy?id=ad01
(概要) 現代文化学部は、学則に掲げる目的に基づき、ディプロマ・ポリシーで示す能力を修得させるため、以下のような方針でカリキュラムを編成します。 (1) 大学教育への円滑な導入を図る初年次教育として、自主的思考力を涵養し、汎用的技能と専門的知識の修得に必要な基礎学力をつけるための科目を配置します。 (2) 幅広く教養を培い、豊かな情操や高い倫理観を涵養するために、教養教育科目を配置し、高度な専門的知識・技能を育成するために、専門教育科目を専門導入科目から段階的、系統的に展開します。 (3) 日本語および外国語の運用力に基づく、高度なコミュニケーション力の修得のために、教養教育科目で日本語運用能力養成領域および多文化コミュニケーション領域と、専門教育科目で実践外国語科目を配置します。 (4) 日本および東アジアの社会と文化に関する諸問題を様々な角度から調査・分析する能力を修得するために、教養教育科目に調査分析基礎領域、専門教育科目に「文芸文化」、「情報メディア文化」、「日本・東アジア社会文化」、「観光文化」の 4 領域を配置し、4 領域から 2 つを学ぶ構成とします。 (5) ビジネスや行政の場で協働して問題が解決できる能力を育成するために、専門教育科目で共通実践科目を配置します。 (6) 文化を様々な角度から分析する視座を確立する領域として、文芸文化領域、日本・東アジア社会文化領域、観光文化領域、そして情報メディアおよび現代的なサブカルチ

ヤーに関する分析能力を育成する情報メディア文化領域の4つの領域を置きます。
(7)文化理解の視座を確立することを目的とする4領域に関しては、卒業後の進路に応じて、2つの領域を組み合わせた形で学修を提供すべくデザインします。
(8)卒業研究に関しては、各領域から1名ずつの指導教員を配置し、多面的な見方から文化を分析する能力を育成します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学 Web サイトにおいて公表）

https://www.shokei-gakuen.ac.jp/univ/gakubu/diploma_policy?id=ad01

（概要）

尚綱大学は、尚綱学園の建学の精神・教育理念及び大学の理念を理解し尊重する学生を求めます。

現代文化学部は、高度な日本語運用能力、多様な文化と社会に関する知識を身に付けた上で、高度情報化とグローバル化が進行する日本社会に貢献できる人材を育成することを目指し、次のような学生を求めています。

- (1)日本の表現文化に興味がある人
- (2)現代的な情報技術に基づいたメディアコミュニケーションに興味がある人
- (3)国際交流や、国内外の様々な地域文化に関心がある人
- (4)観光を通じて、地域社会や地域文化の発展に貢献したい人

入学を希望する人には、高等学校等において、国語・英語を中心とした基礎学力（知識・思考力・判断力・表現力）を習得し、高等学校等における活動などを通じて主体的かつ協働して物事に取り組む力を身につけていることを望みます。これらに関する能力は、入学後の講義、演習等において、問題解決力及びアクティブ・ラーニングにおいて様々な課題を教員・他の学生と協働して探求・解決する力を本格的に育成するために必要となります。

入学者の選抜方法として、一般入試、大学入学共通テスト利用型選抜、総合型選抜、編入学選抜、社会人選抜及び外国人留学生選抜を採用し、上記のような能力や資質を多面的・総合的に評価します。

・一般入試では、国語や英語の筆記試験において知識・技能、思考力・判断力・表現力を、調査書や面接において主体的にかつ多様な人々と協働して学ぶ態度等を総合的に評価し選抜します。

・大学入学共通テスト利用型選抜では、国語や外国語において知識・技能、思考力・判断力を、調査書において主体的にかつ多様な人々と協働して学ぶ態度等を総合的に評価し選抜します。

・学校推薦型選抜では、小論文において知識・技能、思考力・判断力・表現力、調査書・推薦書や面接において主体的にかつ多様な人々と協働して学ぶ態度等を総合的に評価し選抜します。

・総合型選抜では、体験授業において知識・技能、思考力・判断力・表現力や主体的にかつ多様な人々と協働して学ぶ態度等を、面談とエントリーシート・調査書において主体的にかつ多様な人々と協働して学ぶ態度等を総合的に評価し選抜します。

・総合型選抜（自己推薦型）では、自己推薦書等において知識・技能、思考力・判断力・表現力を、面接と調査書等において主体的にかつ多様な人々と協働して学ぶ態度等を総合的に評価し選抜します。

・編入学選抜では、小論文において知識・技能、思考力・判断力・表現力を、面接において多様な人々と協働して学ぶ態度等を総合的に評価し選抜します。

・社会人選抜では、2年以上の社会人経験を有する方を対象に、小論文において知識・技能、思考力・判断力・表現力、面接において、基礎学力と共に社会人としての経験や実績に基づき多様な人々と主体的に協働して学ぶ力を総合的に評価し選抜します。

・外国人留学生選抜では、作文において基礎的な日本語能力を、面接において日本語の会話能力、日本で学習する意欲などを総合的に評価します。

学部等名 生活科学部栄養科学科
<p>教育研究上の目的（公表方法：本学 Web サイトにおいて公表）</p> <p>https://www.shokei-gakuen.ac.jp/univ/outline</p>
<p>（概要）</p> <p>生活科学部は、人間の健康と食のあり方を広い視野から深く教育研究することにより、食・栄養に関する先進的な専門知識と実践技術を身につけ、自律性・対話力・考察力を兼ね備えた専門職業人として、栄養教育、栄養管理、食育等を通して、広く社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。（尚絅大学学則第4条第2項）</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：本学 Web サイトにおいて公表）</p> <p>https://www.shokei-gakuen.ac.jp/univ/gakubu/diploma_policy?id=ad02</p>
<p>（概要）</p> <p>生活科学部は、建学の精神のもと、教育研究の目的に則り、以下の能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定し、「学士（栄養学）」の学位を授与します。</p> <p>(1) 幅広い社会的関心と教養を有するとともに、豊かな人間性に基づく優れたコミュニケーション力を身につけている。</p> <p>(2) 食に関する専門的知識を基盤とした実践的技能を有するとともに、科学的に情報を分析・活用できる能力を身につけている。</p> <p>(3) 栄養・食品・医療・教育等に関する先進的な専門的知識を修得し、専門職としての役割を理解し、社会的責任感と倫理観を備え、自主的自律的に研鑽に努めつつ社会に貢献しようとする態度を備えている。</p> <p>(4) 積み上げてきた体系的知識・技能及び最新の知見を総合的に捉え、保健・医療・福祉・食品・教育・行政等の専門分野の課題に対する的確な考察・判断を行う能力をもち、専門職として他職種との連携のもと、実践に移す能力を身につけている。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学 Web サイトにおいて公表）</p> <p>https://www.shokei-gakuen.ac.jp/univ/gakubu/curriculum_policy?id=ad02</p>
<p>（概要）</p> <p>生活科学部は、学則に掲げる目的に基づき、ディプロマ・ポリシーで示す能力を修得させるため、以下のような方針でカリキュラムを編成します。</p> <p>(1) 大学教育への円滑な導入を図る初年次教育として、自主的思考力を涵養し、汎用的技能と専門的知識の修得に必要な基礎学力を身につけるための科目を配置します。</p> <p>(2) 幅広く深い教養を培い、豊かな情操や高い倫理観を涵養するために、教養教育科目を配置します。</p> <p>(3) 栄養士養成課程及び管理栄養士養成課程として必要な科目を中核とし、管理栄養士に必要な高度な専門的知識・技能を育成するために、専門教育科目（専門基礎分野及び専門分野）を段階的、系統的に展開します。また、適切な態度・倫理観、さらにそれらを背景としたコミュニケーション力を育成するために、実験・実習・演習を体系的に配置します。</p> <p>(4) 栄養士・管理栄養士としての創造的思考力・判断力、社会性、協調性を育成するために、専門的知識と技能の統合的・実践的学修の場として、「管理栄養士総合演習」「臨地実習」「卒業研究」を配置します。</p> <p>(5) 栄養教諭（一種）が備えるべき教育学的見識と十分な指導・教育力を育成するために、教養教育および専門教育と連動するかたちで、教育職員免許状取得を目指す教職課程を配置します。</p> <p>(6) 食品衛生監視員（任用資格）、食品衛生管理者（任用資格）、その他の資格を取得するための科目を配置します。</p>

入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学 Web サイトにおいて公表）

https://www.shokei-gakuen.ac.jp/univ/gakubu/admission_policy?id=ad02

（概要）

尚綱大学は、尚綱学園の建学の精神及び大学の理念を理解し尊重する学生を求めます。生活科学部は、健康の保持・増進や疾病の予防・治療を目的にした栄養指導、医療・福祉・教育分野での栄養管理、食育、食品の研究・開発などに強い関心を持ち、食・栄養の専門家としての高度な知識・技能の修得と、管理栄養士の国家資格取得を目指して努力し、優れた見識・国際感覚・豊かな人間性を身につけたいという意欲が強い学生を求めます。

具体的には、次のような意欲にあふれた人を求めます。

(1)管理栄養士養成カリキュラムの履修に必要な基礎学力を持ち、主体的に勉学を遂行できる人

(2)管理栄養士として社会に貢献しようと考えている人

(3)食と健康に関する現代的テーマに、強い探究心をもって取り組もうと考えている人

(4)生物学・化学などの生命科学に興味があり、専門的な真理を探究する意欲を持つ人

(5)他の専門職との連携やチームワークに必要な協調性を持つ人

入学を希望する人には、高等学校等において、生物、化学、物理、数学など、生命科学を学ぶための基礎知識や思考力・判断力を習得し、主体的に他者とのコミュニケーションを円滑に行うために国語や英語の基礎学力を身につけていることを望みます。これらに関する能力は、入学後の講義、実験・実習・演習等において、他の学生と協働して様々な課題を探索・解決する能力を育成するために必要となります。

入学者の選抜方法として、一般選抜、大学入学共通テスト利用型選抜、学校推薦型選抜、編入学選抜及び社会人選抜を採用し、上記のような能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価します。

・一般選抜では、国語、英語、生物基礎、化学基礎から 2 科目の筆記試験において知識・技能、思考力・判断力・表現力及び主体的かつ多様な人々と協働して学ぶ態度等を総合的に評価し選抜します。

・大学入学共通テスト利用型選抜では、国語、外国語、数学、理科からの選択及び調査書において知識・技能、思考力・判断力及び主体的にかつ多様な人々と協働して学ぶ態度等を総合的に評価し選抜します。

・学校推薦型選抜では、口頭試問、調査書及び推薦書において一般教養、生物基礎及び化学基礎の分野から知識・技能、思考力・判断力・表現力及び主体的にかつ多様な人々と協働して学ぶ態度等を総合的に評価し選抜します。

・編入学選抜では、学力試験及び面接において、栄養士養成専門教育に関する分野から、知識・技能、思考力・判断力・表現力及び主体的にかつ多様な人々と協働して学ぶ態度等を総合的に評価し選抜します。

・社会人選抜では、2年以上の社会人経験を有する方を対象に、小論文及び口頭試問において思考力・判断力・表現力及び基礎学力・技能と共に社会人としての経験と実績に基づき主体的にかつ多様な人々と協働して学ぶ態度を総合的に評価し選抜します。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：本学 Web サイトにおいて公表

(URL: <https://www.shokei-gakuen.ac.jp/outline/>)

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
現代文化学部	—	11人	6人	2人	1人	0人	20人
生活科学部	—	6人	4人	3人	1人	8人	22人 (助手8名を含む)
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		51人					51人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法：本学 Web サイトにて公表 https://www.shokei-gakuen.ac.jp/univ/teacher					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
本学 Web サイトにて公表 https://www.shokei-gakuen.ac.jp/univ/outline/fd							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
現代文化学部	75人	42人	56.0%	300人	180人	60.0%	若干名	1人
生活科学部	70人	66人	94.3%	300人	299人	99.7%	10人	6人
合計	145人	108人	74.5%	600人	479人	79.8%	10人	7人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
文化言語学部	1人 (100%)	0人 (0%)	0人 (0%)	1人 (100%)
現代文化学部	31人 (100%)	0人 (100%)	26人 (83.9%)	5人 (16.1%)
生活科学部	78人 (100%)	2人 (2.6%)	73人 (93.6%)	3人 (3.8%)
合計	110人 (100%)	2人 (1.8%)	99人 (90.0%)	9人 (8.2%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
<現代文化学部> 株式会社マーキュリー、医療法人杉村会、杉村病院、社会福祉法人不動会、特別養護法人ホーム一本松荘、一般財団法人熊本県物産振興協会、株式会社鈴木自販熊本、株式会社ハンズマン、株式会社ヨネザワ、株式会社九州メディカル、株式会社田九州電話通信機、株				

株式会社尚綱サポートセンター、株式会社南九州イエローハット、岩田産業株式会社、学校法人尚綱学園、菊池市教育委員会（菊池市役所）、八代市立図書館、肥銀リース株式会社、株式会社富山工業、菊陽町役場、有限会社若葉旅館、株式会社テクノクリエイティブ、株式会社ヒゴワン、株式会社ビリーフインターナショナル、株式会社天水総合カンパニー、岩下兄弟株式会社

生活科学部>

エームサービス株式会社、栄食メディックス株式会社、株式会社LEOC、九州総合サービス株式会社、日清医療食品株式会社、淀川食品株式会社、あおば保育園、さくらのもり歯科医院、りゅうたろう歯科クリニック、医療法人 田中会 武蔵ヶ丘病院、医療法人安田会 介護老人保健施設星雲荘、医療法人財団聖十字会 西日本病院、医療法人山部会 上代成城病院、医療法人社団愛育会福田病院、医療法人社団岡山会 九州記念病院、医療法人社団鶴友会 鶴田病院、医療法人信和会 和田病院、医療法人聖粒会 慈恵病院、医療法人創起会 くまもと森都総合病院、医療法人田中会 介護老人保健施設おおつかの郷、医療法人田中会 武蔵ヶ丘病院、医療法人博賢会 博賢会病院、医療法人朋岳会 伊井産婦人科病院、医療法人本郷会 介護老人保健施設 ほんごう苑、一般財団法人杏仁会 江南病院、介護老人保健施設 白藤苑、株式会社 保健支援センター、株式会社くまもと健康支援研究所、株式会社さくらさくみらい、株式会社ユニマツト リタイアメント・コミュニティ、社会医療法人社団高野会 大腸肛門病センター高野病院、社会福祉法人 恩賜財団済生会熊本病院、社会福祉法人 熊本菊寿会、社会福祉法人寿量会 特別養護老人ホーム天寿園、社会福祉法人千草会 マイネスハウス福重、社会福祉法人姫戸ひかり会 ひかりの園、社会福祉法人福郷会 げんき保育園、特別養護老人ホーム すずらんの里、独立行政法人 地域医療機能推進機構、未来の森保育園（株式会社 t e n）、有限会社 Emile.K スクール、有限会社九州松栄産業しょうぶ苑、株式会社ドラッグストアモリ、学校法人尚綱学園、菊池教育事務所、熊本県球磨教育事務所、熊本県教育委員会 天草教育事業所、東京都小平市教育委員会、ソニー損保保険株式会社、熊本県庁、熊本市役所、株式会社 通宝

(備考)

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
現代文化学部	40人 (100%)	30人 (75.0%)	2人 (5.0%)	8人 (20.0%)	0人 (0%)
生活科学部	80人 (100%)	68人 (85.0%)	5人 (6.3%)	7人 (8.8%)	0人 (0%)
合計	120人 (100%)	98人 (81.7%)	7人 (5.8%)	15人 (12.5%)	0人 (0%)

(備考)

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>尚綱大学授業計画作成手引き (URL:https://www.shokei-gakuen.ac.jp/univ/outline/disclosure)</p> <p>各学部の授業科目のシラバス一覧 https://gakumu.shokei-gakuen.ac.jp/ (ゲストユーザーからログイン)</p>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>尚綱大学学則第 13 条第 1 項に定められた単位の計算方法により各授業科目の単位数を決定し、且つ尚綱大学学則第 24 条及び第 28 条に基づき、単位・卒業の認定を行う。 本学では単位の認定を行うにあたり、各教員に対してその授業を学ぶ「意味・意義」を意識させたシラバスの作成を求め、またその授業科目がディプロマ・ポリシー(学位授与方針)とどのように関与しているかを明示するよう求める。 具体的には「授業概要」「キーワード」「課題と評価の方法」「事前・事後学修の内容と目安」など記載し、入学した学部・学科の教育課程の授業を履修し、各授業科目に定めている「到達目標」を達成し、学力試験及び受講状況その他により審査の上、合格した者に単位を認定するものとする。 最終的に本学に 4 年以上在学し、所定の授業を履修した上で、124 単位以上の単位を修得した者について学年又は学期の終わりに教授会の議を経て、学長が卒業を認定する。 (根拠学則) 尚綱大学学則第 13 条第 1 項、尚綱大学学則第 24 条、尚綱大学学則第 28 条</p> <p>『GPA の算定について』 尚綱大学におけるグレード・ポイント・アベレージ (GPA) 制度に関する規程 https://www.shokei-gakuen.ac.jp/univ/outline/disclosure</p> <p>尚綱大学ディプロマ・ポリシー https://www.shokei-gakuen.ac.jp/univ/gakubu/diploma_policy?id=ad01</p>
--

学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA 制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
現代文化学部	文化コミュニケーション学科	124 単位	④・無	45 単位
生活科学部	栄養科学科	124 単位	④・無	45 単位
GPA の活用状況 (任意記載事項)		公表方法 :		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法 :		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

<p>公表方法 : 本学 Web サイトにて公表</p> <p>https://www.shokei-gakuen.ac.jp/univ/campus-life/kuhonji (九品寺) https://www.shokei-gakuen.ac.jp/univ/campus-life/musashi (武蔵ヶ丘)</p>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
現代文化学部	文化コミュニケーション学科	670,000 円	220,000 円	260,000 円	施設設備費・休学納付金
生活科学部	栄養科学科	750,000 円	220,000 円	360,000 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

<p>a. 学生の修学に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>学修支援センター (URL: https://www.shokei-gakuen.ac.jp/univ/campus-life/gakusyu) 平成 29 年 4 月に学修支援センターを設置し、授業についていけない、学修の方法が分からない、レポートの書き方が分からない、就職試験の一般教養に自信がない、編入学のための準備の仕方が分からない等々の悩みや不安に寄り添い、日々の学修活動がスムーズにいくように支援している。 具体的には、高校までの学習内容の復習や授業内容の補習の他、個別の学習・履修相談、資格取得等の幅広い相談にも応え、九品寺及び武蔵ヶ丘両キャンパスで数学または英語のサポート教科を開講している。また、九品寺キャンパスにおいては管理栄養士の国家試験合格が求められる生活科学部の学生を中心に生物・化学の学習支援のほか、国際交流協定校での語学留学に向けた英語、中国語、韓国語のスキルアップや諸外国の海外事情等のレクチャーを行うなどの支援を行っている。 このほか、学修相談、履修相談を両キャンパス教務課で行い、スムーズな履修登録が行えるよう指導している。 学修環境について、九品寺キャンパスでは大学図書館にグループ学習室、武蔵ヶ丘キャンパスでは短大棟に学習室を設け、サポートを行う教科を開講し、学生の自習等に利用できるように整備されている。</p>
<p>b. 進路選択に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>就職・進路支援センター (URL: http://www.shokei-gakuen.ac.jp/univ/career/) 就職・進路支援センターでは、学生の多様なニーズに対応し、希望の就職・進路の実現をサポートしており、①個別支援 (履歴書・エントリーシート対策、キャリアカウンセリング、模擬面接) ②就職支援・資格取得支援 (就職対策講座、簿記検定対策講座) ③就職支援プログラム (インターンシップ、経営者による講演、会社説明会、企業研究会) ④キャリアガイダンス (専門家や社会人による講演、合同会社説明会兼企業研究会、模擬面接、グループディスカッション、メイク、マナー講座、社会人への準備支援セミナー) など希望の就職・進路の実現ができるようバックアップの体制を整えている。学生の希望をしっかりと聞き取り、本人に寄り添いながら人生設計を踏まえ将来のビジョンを共に考えるなど、最適な就職・進路の選択や決定が出来るよう支援を行い、夢や希望を実現させるための充実した就職支援体制を整えている。</p>

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

九品寺キャンパス及び武蔵ヶ丘キャンパスに学生支援課を置き、学生生活に関すること全般にわたり支援を行っている。特に学生の心身の健康等に係る支援に関する取組みについては、以下のとおりである。

- ・各キャンパスにおいて年1回（4月）に健康診断を実施し、学生の健康状態を把握する。
- ・各キャンパスにおいて、保健室（養護教諭を置く）を設置し、学生の心身の相談・緊急時の対応を行う。
- ・各キャンパスにおいてカウンセラー室を設置し、週1回（武蔵ヶ丘キャンパスは隔週1回）のカウンセラーによる相談を受け付ける。
- ・各キャンパスにおいてカウンセラー室を設置し、隔週1回のキャンパスソーシャルワーカーによる相談を受け付ける。

これらについては、学生の健康状態、心身の相談状況等を学生支援課、保健室、カウンセラー、キャンパスソーシャルワーカーで連携し、学生の状況について改善を図るよう努めている。

このほか、新入生に対し「学生支援講座」を開講し、学生に対し「薬物乱用防止」、「こころの健康」、「女性の健康」の講話を受講させ、心身の健康に係る支援を行っては声掛けをして必要な対応や支援を行うことを予定している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：本学 Web サイトにて公表

<https://www.shokei-gakuen.ac.jp/univ/outline/disclosure>

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F143310111335
学校名	尚綱大学
設置者名	学校法人尚綱学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		70人	66人	73人
内 訳	第Ⅰ区分	35人	32人	
	第Ⅱ区分	24人	26人	
	第Ⅲ区分	11人	-	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人		
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)	0人		
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	—		
「警告」の区分に連続して該当	—		
計	—		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡つて認定の効力を失った者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
年間	前半期	後半期	

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	—
3月以上の停学	0人
年間計	—
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	0人		
G P A等が下位4分の1	-		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	-		
計	-		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。